

## 資料 2

和歌山大学教職大学院における

ICT を活用した学校支援計画



本学は県最北部に位置しており、最南端の学校とは特急を用いても最短で3時間、自動車では4時間弱を要する距離にある。鉄道は紀ノ川沿いか海岸部にしかなく、90%以上を占める山間部への交通手段は非常に限られている。このような地理的情勢（列車路線や高速道路網の未整備、山間部のへき地学校を多数含む状況）の中、和歌山大学教育学部では、早期からTV会議システムやe-learningシステム等を用いて、学校教育現場や各研修施設とのネットワーク交流事業をおこなってきた。また、2013年度からは「教員用SNS=Teacher's Communication Network System」（ティーチャーズコミュニネット）を運用し、県内新規採用教員と勤務校指導教員・大学教員等が日常の授業情報を共有するために活用している。

これらの実績を元にして、教職大学院ではより教育現場との密接な関わりを確保し、指導の充実を図るための体制を構築する。これは、大学教員の訪問指導を主体としつつ、オンライン指導との相乗効果を見込むものであり、「ICTを活用した現任教実習モデル」として、主として以下のア～エの形態を想定しておこなう。

#### ア Web conference による遠隔指導・協議

大学教員の現任教への訪問指導を主体としつつ、インターネットを通じた Web Conference を導入し、遠隔での指導・協議に役立てる。地理的・時間的な制約から直接訪問が困難な場合、指導案検討や各マネジメント計画立案等の対面でなくとも指導可能な場合には、Web Conference を用いる体制を構築する。

これにより、双方の時間的な設定も容易になり、効率的に指導の充実を図ることが可能となる。

原則、現任教への訪問指導の間をつなぐための手段とするが、直接訪問と同等の指導の効果をあげるために、各種資料の共有やアナログ・手書きデータのデジタル化の手法などには工夫・配慮をおこなう予定である。

なお、Web Conference は、多地点での接続が可能であるため、現任教が許可すれば、その周辺校や教職大学院への入学を希望する教諭及び研修センター指導主事等をオブザーバーとして参加させるなど、極力オープンな状況を目指したい。

#### イ 専用 SNS (Social Networking System) による日常的な情報共有・交流

日常の授業の様子（工夫した点など）、些細な校内の出来事、学校行事等の情報交流を目的としたものであり、板書や自作教材、教育書等の紹介等をおこなうなど、肩の力を抜いたカジュアルな交流をおこなうものである。

大学教員側が普段の学校の様子を知る機会でもあり、実態を把握する上で貴重な情報ソースとなったり、院生の考え方や授業観を知る機会ともなり、指導の充実に役立てることが可能である。

なお、SNS の中では、院生も大学教員も極めてフラットな関係となるため、相互に

質問したり、院生同士の横のつながりができることも大きな特徴である。

なお、教職大学院開設時には、現在初任者研修用として運用中の専用 SNS（ティーチャーズコミュニケーションネット）を更に発展させた新規システムの導入を計画中である。よりシンプルなインターフェイスで情報共有・交流の利便性・会話感覚を向上させる予定であり、現在抱えている操作や表示上の課題を解消し、教育分野に特化したシステム体系を目指している。

#### ウ ビデオサーバーによる大学講義の配信・反転講義

大学の持つ資源としては、やはり各専門分野について解説する講義がある。オープンエデュケーションの一環として、各大学は積極的に学内講義映像を一般に公開しているが、教育系の大学ではまだその例があまり見られない。そこで、順次、教職大学院担当教員および教育学部教員の専門性を発揮した講義の映像収録を進めていく。これまで、本学は e-learning システムの運用によって、映像収録・配信の実績があるが、教職大学院の規模やその運用目的に合致したシステムとして、いわゆる「反転授業」のノウハウを取り入れ、視聴後に対面での協議と組み合わせるための講義として収録・配信する。

これによって、院生は、事前に講義視聴を済ませて一定の理解があるという前提で、指導を進めることが可能となる。特に 2 年次での対面指導の際には、指導の効率化を図ることが必要となるが、院生は映像講義に関しての質問から開始したり、受講者同士による協議から始めることも可能となる。なお、県内教員には当映像を公開し、教職大学院への体験入学的な役割を持たせる予定である。

#### エ ビデオサーバーによる研修用映像教材の配信

授業研究や校内研修マネジメント等に関する映像配信によって、その指導や講義・協議を充実させる。リアルタイムな配信では、上記①の Web Conference システムを用いて、オンデマンド配信の場合は、上記③のシステムを用いて実施する。

授業映像の場合は、授業分析手法のレクチャー、研修や研究協議等の映像の場合は、学校マネジメントに関する指導等に役立てることが目的である。これまで、このような視点で用いられる映像教材は非常に限られているか存在すらしておらず、各校の教員による感覚的且つ経験的に習得するものでしかなかったが、これらの映像を用いて、より教育現場に即した指導法や学校マネジメント等の力量を伸ばすために役立てていく予定である。

#### ・ ICT 機器の操作技能の習得及び児童生徒らの個人情報の扱いに関する指導

Web Conference システム等の設備については主として大学側にて準備し、現任校に配備し、各種調整や活用方法の指導をおこなう予定である。また、Web Conference シ

STEM等の ICT 機器の操作方法、学習指導案や児童生徒のワークシート等を含む手書き資料のデジタル化およびネットワークを通じてのセキュリティを確保した送付方法等の習得には、1年次にその指導を実施する予定である。

特に、Web Conference における音声通信の品質および資料提示が遠隔指導においては重要であるが、拠点校でのネットワーク回線状況やマイク・スピーカー・ビデオカメラ等については、安定した交流がおこなえるように専門のスタッフが本学・現地校との調整をおこなうこととする。